

私たちの生活に 欠かせない住環境と健康

原子力災害により放出された放射性物質による影響を考えると、換気を続けてもよいのか、洗濯物は外に干してもよいのか、このままの住環境に住んでいてもよいのでしょうか？



● 住環境と放射線 ●

1. 現在、空気中に存在する事故由来の放射性物質は極めて微量です。

現在、空気中に存在している放射性物質は市内の3ヶ所で測定しています。いずれも事後以前からあるラドン・トロンなど自然環境中の放射性物質です。事故由来の放射性物質はすべて検出下限値以下です。福島県内は毎月測定結果を公表しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16025d/sonota-senryo.html>

現在、雨や雪にも事故由来の放射性物質は含まれていません。このため、マスクをしなくても、家の窓を開けて換気しても、洗濯物を部屋の外に干しても、事故前の生活環境に戻っています。



空間線量率測定のための
放射線モニタリングポスト

2. 放射性物質が比較的集まりやすい場所は、雨どいの下や側溝です。

「側溝」など水が流れ込む場所などに放射性物質が比較的多く集まりやすいと言われていいます。これは、土に付着していた放射性物質が水と一緒に流れ込むなどして移動してくる可能性があるためです。



雨どいの下

空間線量率のマイクロシーベルト/hは、1時間その場所にいた場合、これだけ線量を受けるという意味です。実際の生活では、雨どいの下近くを通り過ぎる程度ですから、受ける線量は非常に小さいと言えます。



側溝

いわき市各地の詳しい線量は、「いわき市放射線量マップ」として常時公開されています。

<http://www.city.iwaki.fukushima.jp/13223/13225/013549.html>



家の庭の除染をしなくても、 子どもたちを外で遊ばせても大丈夫ですか？



☆現在の市の放射線量は外部被ばく線量が年間1ミリシーベルトを超える状況ではないことから、健康上の心配をする空間線量ではないと言えます。外遊びのリーフレットも見て下さい。外遊びは子どもの成長に大切です。

☆市内は除染が必要なほどの線量ではない地域も多く、子どもたちが外で遊んでも問題ありません。外で遊んだ後には、手洗い、うがいをしましょう。手洗いやうがいは病気を防ぐとともに、放射性物質を体に入れないことにも役立ちます。

(2014年8月12日、いわき市環境放射線測定マップ)

ミニ知識

空間線量と個人線量の関係

- ☆空間線量は必ずしも個人の外部被ばく線量を正確に反映するものではありません。
- ☆個人の生活様式の違いによって受ける線量は変わります。一般的に、家や学校などの建物の中にいる時は、放射線がある程度さえぎられます。これを遮へい効果といいます。
- ☆実際の日常生活を送る中で、どれくらい線量を受けているのか、「個人線量計」を使って知る事が出来ます。一定期間、専用の線量計を身に着け、生活を送ることによって、身に着けた期間の外部被ばく線量の値を知ることによって、より正確な個人ごとの個人線量が判ります。



個人線量計

いわき市の放射線健康管理センター
(0246-27-8560)において無料で貸し
出しています。お気軽にご相談ください。

まとめ

放射線関連も含め住環境が抱える問題はさまざまありますが、住空間・住環境を暮らしやすいものにしていくことが、生活の豊かさにとってはとても重要なことではないかと思えます。



発行 「保健師の活動と放射線」環境省原子力災害影響調査事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）
ホームページ <http://phnradiation.jp/>

いわき市保健所
ホームページ <http://www.city.iwaki.fukushima.jp/index.html>

(2014年11月作成)